

多肉植物で全国へ！



異業種から新規就農した高橋友美さんが、SNSを中心に販売する多肉植物は、販売開始30分で完売することもあるという。

もともと植物が好きで、多肉植物の栽培を始めた頃は失敗する事もあり、ネット検索で知り合ったブロガー達から栽培方法を教えてもらおうと、ポットの数がたちまち増えていった。

看護師として勤務していた病院を辞め、多肉植物の栽培に専念し規模拡大しようとするも、農業経験もない上に農業者とのつながりがないため、ビニールハウスを建設する農地を探せず困っていた。通りを行く人に聞いて回ってみては、とアドバイスを受け、百人でも声をかけるという意気込と行動力には驚かされる。最初に声をかけた人が農地所有者で、自分の農地で良ければ、と貸してくれることになった。「私は運が良かったんですよ」と笑顔で話しており、その後は資金の借入れも順調に進み、昨年4月に正式に農業者として第一歩を歩み始めた。



「水をやる時はポット一つ一つに気を遣い、大事に育てているため、最後まで手をかけられる直接販売しかしません。SNSを中心に全国に販売していきたいですね。」と抱負を語る。行動力溢れる高橋さんの今後に地域からの期待も大きい。

年間2000個以上のアボカドを



市内でアボカド生産に取り組まれている奈須一也さんを紹介します。

日向市生まれ、日向市育ちで25歳から30年間、住宅設備に携わっています。50歳からは父に代わって経営もしています。実家も農業はしていないので、農地も農業経験も無かったです。

会社経営をしている友人たちと、今の事業プラスアルファ、何か事業をしたいということをよく話していました。その話題の中で、アボカドのブームが来るかもしれないと聞き、農業分野に参入を決めました。3年前から準備にかかり、知人のハウスを借りてアボカド等果樹のポット栽培を始めました。

アボカドは摂氏4度以下になると枯れてしまうため、ビニールハウス内に、電熱線と投光器、ストーブを準備しました。また、1種類だと受粉が上手くいかず結実しないため、ピンカートン、ベーコン等、6種類のアボカドを栽培しています。受粉は、現在は手作業で行っています。去年はハウス内の温度管理が上手くいかず、何本か枯らしてしまいました。

農業経験もないため、農地取得は本当に大変でしたが、知り合いの農地利用最適化推進委員へ相談をしたところ、一緒に探してくれることになりました。塩見、富高、財光寺を中心に10件以上農地の交渉を行い、最終的に交通の便や日当たりが良く、自宅から近い農地に決めました。今考えると、一人で農地を探すのは難しかったと思います。



現在、新たに取得した農地にビニールハウスを建設中で、完成後は100本程定植をします。目標は、年間2000個以上のアボカドを収穫することです。

品種にもよりますが、収穫時期は9月から1月末までで、大きさはマンゴーのL玉ぐらいです。大切な方への贈り物として手に取っていただけるよう、丁寧に栽培することを心がけています。なので、ふるさと納税やインターネット販売を中心に、贈答用の国産アボカドとして販売していきたいと思っています。